

【答えのない問い】

世界の人々となかよし大作戦

【実践者】

氏 名	渡邊 恋子	学校名	長岡市立大河津小学校
担当教科等	全教科	対象学年（人数）	2年1組（22名）
実践年月日もしくは期間（時数）	2024年9月～11月（8時間）		

実施概要

01 実践する教科・領域

- ① 道徳・国際理解、国際親善
- ② 学活・（2）イよりよい人間関係の形成

02 単元名と単元目標

単元名：世界の人々となかよし大作戦

単元目標：食べ物を通じて、他国の人々や文化に親しみ、他国の人と関わる意欲や関心を高め、進んでコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

関連する学習指導要領上の目標：

- ①他国の人々や文化に親しむこと
- ②学級や学校の生活において互いのよさを見付け、違いを尊重し合い、仲よくしたり信頼し合ったりして生活すること

03 単元の評価規準

① 知識・技能	世界には、さまざまな言語や生活、文化があることを知り、日本との相違点や共通点に気付くことができる。
② 思考・判断・表現	他国の人々の文化を想像したり、相手の気持ちを考えてより良い関わり方を考えたり、話を聞いたりしている。
③ 主体的に学習に取り組む態度	他国の人々に関心を持ち、進んで関わろうとしている。

04 単元設定の理由・単元の意義

本校児童は、1つの保育園から同じ小学校に入学し、新しい集団と交流することがない。外国にルーツを持つ児童は1名いるが、地域では他国の人を見かける機会もなく、他国に対してもマイナスなイメージをもっている。留学生と交流をすることで、他国に対するマイナスなイメージが変わり、異なる文化の

良さを感じたり、さらに他国のことを知りたい・親しみたいという気持ちを高めたりしながら本実践の取組を進めていきたい。

〈児童/生徒観〉

これまでに外国のイメージを尋ねると、戦争・ミサイル・人々が逃げる姿を想像し、言語が話せなければ、仲良くなれないと感じていたり、「なんとなくこわい」と抽象的な感想をもったりしていた。また、これまでに家族や親戚が外国に行ったことがあるかを尋ねると、約半数の児童が「わからない」と答えた。児童の発達段階からみても、まだまだ国際的な視野に立って物事を考えることは難しいと考える。

〈指導観〉

他国の人と関わるイメージをつかみやすいように、教師のパラグアイでの体験を想像して考えたり、交流会を2回行うことにより、1回目の交流での反省や改善点を、さらに次の交流や活動に生かしたりする姿を目指す。この単元の学習を通して、言葉や文化が違うからこそその関わりの難しさと、それを乗り越えて分かり合えたときの喜びを感じさせながら、よりよい関わり方という答えのない課題に対して、自分なりに考え、実際に触れ合おうとする姿勢を育みたい。

05 単元計画（全8時間）

	小単元名	学習のねらい	学習活動
1 ～ 2	他国の異文化体験	他国の文化を初めて体験するときの不安な気持ちと、楽しい気持ちの両面を考える	・外国に対する不安や恐怖は何から感じるものなのかを考える ・教師のパラグアイでの体験を想像する
	資料・教材など 心の数直線（タブレット）、パラグアイで購入したもの（アサードの塩）、地球儀、ワークシート（ジグソー活動）		
3 本時	交流会を企画しよう	他国の人々に対するより良い関わり方考える	・なぜその内容が良いのかを考える ・企画の内容を共有する
	資料・教材など ワークシート		
4	交流会をしよう①	他国の文化を知ったり、日本を知ってもらったりする喜びを知る	・講師の先生による自国の紹介 ・異文化を一緒に楽しむ
	資料・教材など スライド、ロテリア（カードゲーム）、音楽（講師の方が用意）		
5	交流会①を振り返ろう	より良い関わりについて考えたり、話し合ったりすることができる	・1回目の交流会の経験から、2回目の交流会の内容を考え直す
	資料・教材など		
6	お楽しみ会をしよう②	他国の文化を知ったり、日本を知ってもらったりする喜びを知る	・他国の文化のクイズ大会 ・日本の遊び（けん玉）を教えてあげる ・一緒に協力し、関わるあそびをする（大縄・かもつれっしゃ） ・一緒に給食を食べる

	資料・教材など クイズのスライド、大縄、けん玉		
7 ～ 8	全校のみんなに発表しよう	全校のみんなに伝えた いことを考える	・交流会の前後で外国に対するイメージの変化 を伝える ・他国のあいさつのクイズづくり
	資料・教材など 活動の様子の写真		

06 本時の展開（3 時間目）

本時のねらい：お互いのことを「知る」ためのお楽しみ会を企画することができる。

過程・ 時間	教員の働きかけ・発問および学習活動・ 指導形態	指導上の留意点 (支援)
導入 (10 分)	○前時想起する T：みんなは世界の人となかよし名人！他の国の人と会ってみたいですか？ C：会ってみたい ○第 1 回交流会の留学生講師の紹介 T：アレックスさんと最初にあったら何をしたらいいと思いますか？理由も教えてください。 C：あいさつ ○本時の課題設定「第 2 回交流会のめあて」の確認 ◎10/25 お楽しみ会の内容を考えよう！～どうやったら、なかよくなれるかな？～	留学生のプロフィールを伝え、イメージを持たせる。
展開① (20 分)	1 グループで他の国の人とどんなことをしたり聞いたりしたいかを考えて話し合い、それぞれの考えを発表する。 C：相手の国のいろいろなお話を質問して聞きたい C：日本の遊び（けん玉）を教えたい C：一緒に給食を食べたい	留学生の国だけを伝える。自分たちが楽しいと思うだけにならないよう、その都度めあてを確認する。
展開② (10 分)	2 互いの意見を交流する	したい遊びとその理由について、似ている意見をまとめていく。
まとめ (5 分)	まとめ 会って話をしたり、一緒に遊んだり、なかよくなる方法はいっぱいある！	

使用する資料・教材：ワークシート

07 板書計画

なし

08 評価規準に基づく本時の評価方法

発言・ワークシート・交流の様子

09 学校外との連携（※該当のある場合）

長岡国際交流センター「世界が先生」

長岡技術科学大学 留学生

10 学びの軌跡（※児童生徒の発言の変化など）

外国に対するイメージの変容 交流前と後のアンケートから

	交流前	交流後
A 児	なんとなくこわい	こわいものはもっていないとわかった
B 児	ミサイルがこわい	人はそれぞれ違うと思った
C 児	なんとなくこわい	外国にも優しい人がいると思う

交流後のふりかえりから

D 児 留学生と会うことができて、元気が出た。ぎゃくに留学生が僕たちを楽しくしてくれたから、全員が楽しめた。

11 海外研修で何を学び、どの部分を児童生徒に伝えようと思ったか

日本とパラグアイのつながりを知り、パラグアイに住む人々の話を聞いたり、触れ合ったりすることで、その国やその人ともっと関わりたい、知りたいという思いが深まった。児童たちには無関心・無知なままではなく、相手と関わったり知ったりすることの楽しさを感じながら、様々な違いを受け入れられるようになってほしいと思った。

「日本人」⇔「パラグアイ人（外国人）」のどちらかではなく、現実のアイデンティティの多様性（日系人、日本生まれ・日本人育ちの外国籍の人）などについて、伝えていきたいと考えた。

12 苦労した点

児童は他国の人と接する機会がほとんどないため、関わる時に考慮すべきことの想像が及ばないことが多々あった。交流内容を考えるときには、「言葉の違い」や「文化の違い」を想像させたり、「自分たちが楽しい遊び」＝「（きっと）留学生も楽しめる」という考えから脱却させたりすることに難しさを感じた。

13 改善点

交流内容を考える前に、「日本の文化との共通点」と、「日本の文化との相違点」を考える授業をすることで、他国への文化の興味関心を高めていけたらよかったと思う。

交流内容を考える際に、「様々な違いがあっても、相手も自分たちも楽しめる共通点を探す。そのために相手の文化・宗教・習慣などを考慮する」という視点を持たせたうえで考えさせるとよかったのではないかなと思う。

14 成果が出た点

ドキドキ感・わくわく感を持って交流に臨むことができ、交流前と後では外国に対するアンケートの結果が大きく変容した点である。振り返りでは、友達になるためには、「自分から聞いたり話しかけたりすることが大切」と答える児童が半数を超え、ALT との授業もさらに積極的に取り組むようになった。

世界に関する本を読むようになったり、国旗やアルファベットに興味を持ち、自主学習で取り組んだりする児童が増えた。また、家庭内で交流の様子を話す子どもも多く、保護者からも「国際交流ができてよかった」との意見を多数いただいた。

15 自由記述

今回の授業実践を通して、県内にはいくつもの実践や研修がたくさんあり、見る視点を変えるだけで授業の材料になることに気付いた。自分が想像していた以上に子どもたちは外国人を受け入れることに柔軟であり、余計なフィルターの一切かかっていない素のままのうち解け方には大人以上のパワーを感じた。これからの国際理解教育が楽しみである。

本研修で得た経験を生かし、持続可能な社会の創り手を育てる授業実践を目指して、今後も授業を通して子どもたちに還元していきたい。